



昭和二十一年（一九四六）の南海地震後、私はすぐに服を来て階下に下りました。まもなく母や祖母が妹や弟たちに服を着せ終わり、皆玄関の部屋に集まりました。玄関口の板間には収穫し乾燥を終えたばかりの籾を入れたかますが並べられていました。その頃は食糧難の時代で、母と祖母は「これを二階に上げると逃げよう」と言いました。その時です。外から伯母が雨戸を叩いて「津波が来るぞ、はよう逃げえよ」と声をかけ、足早に走り去っていきました。

母から「子供らは先に逃げとれ」と言われ、私が入り口の障子を開けた途端にドーン、ザーという音とともに、雨戸と雨戸の隙間からいつせいに海水が吹き出してきました。「みな早う二階に上がれ」と言う祖母の声に、母は籾の一杯詰まったかますを持って階段を駆け上り、みんなも続きました。

階下の様子を見に行った母は「階段の上近くまで波が来とる」と言う。祖母は「もうあかんやわからん。死ぬんやたらみんな一緒や」と言つて、七人が輪になって手を握り合いました。

真つ暗な中で、ドーン、ドドーンと家に何かが打ち当たる音が数回続いて聞こえた瞬間、突然家が崩れるように倒れ、家に押し潰されるようにしてみんなが水中に押し込まれました。

近くにいたはずの家族の姿は一人も見えず、無我夢中で水の中をさぐり、手に触ったものを引っ張り上げました。弟や妹たち三人は間近におり、祖母も少し離れて浮き上がっていましたが、母と叔母の姿は見当たりませんでした。

あの時に欲を捨てて、すぐに逃げていればと今までに悔やまれます。

背景

昭和21年（1946）の南海地震と津波は牟岐町に大きな被害をもたらしました。当時は食糧難の時代で、収穫し終えた後の籾は貴重なものでした。この話は、籾を入れたかますを二階に上げてから逃げようとしたために、母と叔母を亡くした家族の話です。地震後、津波に備えて、一刻も早く逃げていれば、二人の命は救われていたかも知れません。

アクセス

南海震災史碑

- JR牟岐駅より南東へ直線距離で約1km
- 牟岐町灘字大牟岐田 児童公園内
- 緯度経度 北緯33度39分59秒、東経134度25分39秒

